県内 地域総合

話題のニュース

認定こども園建替へ
補正案 設計費に8811万円を設計
筑西市

筑西市は、9月議会定例会に補正予算案（第7号）を上程。主なもので、認定こども園せきじょうの建て替え工事に向けた基本・実施設計委託料に8811万円、放課後児童クラブ施設の整備工事費1084万6000円などを計上している。一般会計に5億2184万7000円を追加し、総額を458億3399万円とした。

認定こども園せきじょうでは、既存施設の老朽化を受け、建て替え工事を予定している。議決後、早ければ10月中にも、基本・実施設計を公募型プロポーザルで発注する予定だ。新園舎の建物規模は、延べ面積約2000㎡程度を見込んでいる。

また、関城西小学校では、放課後児童クラブの拡大に向け、校舎内の多目的ホールを改修する。現在の定員は80人で、これに40人ほどの規模を追加する計画。環境整備のため、空調の設置工事などを予定している。

このほか、道路維持補修工事費に7000万円、道路修繕工事費に5000万円、中央図書館排煙窓改修工事費に363万円などを設定している。

補正予算案の主な内容は次のとおり。

【総務費】
■地域づくり振興基金積立金＝9350万円
■板谷波山記念館施設整備等事業基金積立金＝1700万円
■団地排水建設事業基金積立金＝1063万1000円
【民生費】
■放課後児童クラブ施設整備工事費＝1084万6000円
■認定こども園せきじょう整備事業
□基本・実施設計委託料＝8811万円
【衛生費】
■地域ケア基盤整備推進事業費補助金＝179万1000円
■浄化槽設置費補助金＝1963万1000円
【土木費】
■道路橋梁維持管理経費
□植栽管理・除草委託料＝500万円
■道路維持補修事業
□道路維持補修工事費＝7000万円
□道路修繕工事費＝5000万円
□原材料費＝8000万円
【教育費】
■図書館施設改修事業
□設計委託料＝27万5000円
□中央図書館排煙窓改修工事費＝363万円
■街頭防犯カメラ設置工事＝214万5000円
【民生費】
■豊加美クロッケー場原状回復工事＝480万円
【農業費】
■ほ場整備事業費
□経営体育成関連流動化促進事業補助金（大宝沼地区）＝1億2943万円

防犯カメラを設置
クロッケー場現状回復
下妻市

下妻市は、9月定例議会に補正予算案第5号を上程。主な内容として、豊加美クロッケー場の原状回復工事に480万円、街頭防犯カメラ設置工事に214万5000円などを計上している。

一般会計に5億6529万7000円を追加し、総額を195億4492万1000円とした。

豊加美クロッケー場は、利用者の減少などにより廃止を予定。借地であるため、原状回復工事を実施した後は地権者に返却する。敷地面積は3528㎡。1988年に設置した。

街頭防犯カメラの設置工事では、市内に3台の防犯カメラを設置する予定。秋頃には発注したい考え。

補正予算案の主な内容は次のとおり。

【総務費】
■公有財産利活用調査委託料増＝275万円

汚水処理普及率86％で全国31位
《本県状況》

国はこのほど、全国の汚水処理人口普及率を公表した。それによると、本県の2020年度末における汚水処理人口普及率は86％で対前年度比0・4ポイント上昇した。全国順位は前年度と同じ31位だった。

県内を市町村別でみると、1位は守谷市で100％。次いで五霞町が99・5％、日立市が99・4％、土浦市が96・5％と続く。

なお、全国における20年度末の汚水処理人口普及率は92・1％となっている。

県土木部・幹部 きょうの動向
（○＝在庁　●＝不在）

	午前	午後
【本課】		
部長	○	○
次長（事）	●	●
次長（技）	○	○
都市局長	○	○
港湾振興監	○	○
企画監	○	○
監理課長	○	○
用地課長	○	○
検査指導課長	○	○
道路建設課長	○	○
道路維持課長	○	○
河川課長	○	○
港湾課長	○	○
営繕課長	○	○
都市計画課長	○	○
都市整備課長	○	○
下水道課長	○	○
建築指導課長	○	○
住宅課長	○	○
【出先】		
水戸土木所長	○	○
常陸大宮土木所長	○	○
大子工務所長	●	●
潮来土木所長	●	●
土浦土木所長	○	○
筑西土木所長	●	●
常陸太田事所長	○	○
高萩工事所長	○	○
鉾田工事所長	○	○
竜ケ崎工事所長	○	○
常総工事所長	○	○
境工事所長	○	○

涸沼の公園整備で増額
し尿処理施設の設備更新
鉾田市補正案

鉾田市は2日、定例記者会見を開き一般会計補正予算案（第6号）などの議案説明を行った。補正案では、涸沼ラムサール条約に係る基盤整備工事に2321万円を追加。設計変更に伴う暗渠管の整備などを行う。し尿処理施設整備事業では、緊急的な設備の更新を行うため1711万6000円を計上した。

涸沼ラムサール条約に係る施設等整備事業は、ラムサール条約登録湿地である涸沼の豊かな自然を観察するため、水鳥湿地センターや公園を整備するもの。

今回の補正は、基盤整備工事費を増額したもの。公園の敷地は堤防沿いに位置しているが、堤防と公園敷地の間には土側溝がある。住民からの要望もあり、設計を変更してこれを整地することとしたため、新たに暗渠排水管を整備する。整備延長は約100mを見込む。

し尿処理施設は老朽化した設備を修繕する。対象はエコパーク鉾田と大洋サニタリーセンターの2カ所。エコパーク鉾田では現場操作のタッチパネルの液晶を、大洋サニタリーセンターでは中央制御盤や動力制御盤などを更新する。

そのほか、海水浴場内整備工事に280万5000円、公民館修繕料に92万5000円をそれぞれ設定した。認定こども園の整備に係る事業費9億8360万1000円について繰越明許費を設定した。

今補正案では歳入歳出にそれぞれ5億5784万4000円を追加。当初からの総額を259億4394万円とする。

補正案の主な内容は次のとおり。

■保育環境改善等事業費補助金＝370万円
■涸沼ラムサール条約に係る施設等整備事業基盤整備工事＝2321万円
■し尿処理施設整備等工事＝1711万6000円
■海水浴場内整備工事＝280万5000円
■公民館修繕料＝92万5000円
■公共施設整備基金積立金＝3億8000万円

脱炭素化に向け取組検討
次世代エネルギーの需要など
茨城港と鹿島港／CNP－WGが会合

茨城港および鹿島港カーボンニュートラルポート形成計画作成ワーキンググループ（CNP－WG）の第2回会合がこのほど、県庁で開催（リモート開催）された。各港における今後のCNP－WGの進め方や、各企業における脱炭素化に向けた取り組みなどについて話し合いが行われた。次回は9月末ごろに開催する見通しで、CNP形成計画の原案を取りまとめる。

県をはじめとする行政・団体や民間企業、大学・研究機関は、いばらきカーボンニュートラル産業拠点創出推進協議会（会長・大井川和彦県知事）を設立し、温室効果ガスの大幅削減や新エネルギーなどを活用して産業競争力・立地競争力の実現を目指している。

CNP－WGは、茨城港および鹿島港で水素やアンモニアなどの次世代エネルギー利活用の需要と供給体制を一体的に創出するとともに、港湾機能の高度化、臨海部における環境に配慮した産業の集積を図るCNPの形成に向け、次世代エネルギーの需要、利活用方策、導入上の課題などを検討するもの。

座長は国土交通省関東地方整備局の石橋洋信副局長と県の小善貞司副知事（写真）。

会合は非公開で行われ、二酸化炭素排出量の推計や水素・アンモニアの需要推計などを基に、必要となる施設規模を算定。また、茨城港および鹿島港における将来のCNP形成イメージ案が示された。

今後は先行する他地域に追いつくため、年度末までに具体的な取組を検討し、取組例を提示する。9月末開催予定の次回会合までにはCNP形成計画の原案を取りまとめる。

指定管理者を募集
限度額は単年2.4億
13日までに申請／神栖市

神栖市は市内7児童館を一括で管理する指定管理者を公募型プロポーザルで募集する。業務内容は保守管理業務や維持管理業務など。募集要項等の配布期間および申請期間は9月13日まで。委託期間は2022年4月1日から27年3月31日までの5年間。指定管理料の予算額（見積限度額）は単年度当たり2億4708万4000円。

対象は平泉児童センター、大野原児童館、軽野児童館、うずも児童館、若松児童館、女性・子どもセンター、波崎西児童館の7施設。

主な参加資格は児童福祉施設等の管理運営実績があり、児童健全育成事業に熱意があり、市内に事務所を有することなど。

業務のうち、保守管理の内容は消防・防火設備保守点検（共通）、エレベータ保守点検（女性・子どもセンター）、自動ドア保守点検（女性・子どもセンター、若松）浄化槽点検（波崎西、若松、軽野）、施設清掃委託（共通）、空調関係設備（共通）、害虫駆除（共通）、防犯カメラ保守点検（共通）。

維持管理は清掃・環境整備業務、施設保全業務など。

第1次審査は9月17日に、第2次審査は10月中旬に行う予定。結果通知は10月中旬以降の予定。

牛堀麻生バイパスで改良舗装
事業概要 前川では市道橋架け替え
県潮来土木

県潮来土木事務所は、幹線道路のバイパス整備4車線化、河川整備、海岸浸食対策などの事業を進めている。本年度の事業概要として、国道355号牛堀・麻生バイパスや都市計画道路宮中佐田線、県道潮来佐原線では道路改良舗装工事を推進。一級河川前川では市道橋の架け替えを行う。鹿嶋・波崎海岸の侵食対策として粗粒材による養浜工事を進める。

▲供用開始済区間（宮中工区）

鹿行南部の社会資本整備を推進

国道355号は、潮来市（旧牛堀町）及び行方市（旧麻生町）の市街地を通過している道路で、朝夕には主要交差点等において慢性的な交通渋滞が発生。交通の円滑化や住民生活の安全確保、災害時における緊急輸送道路のネットワーク機能確保を目的としてバイパス整備を進めている。本年度は永山地内で道路改良舗装工事を実施。

都市計画道路宮中佐田線は鹿嶋市の中心市街地を南北に縦断し、国道51号や国道124号などの広域幹線道路を結ぶ。鹿嶋市内における交通の円滑化や地域の連携強化、さらに災害時における緊急輸送道路としても重要な路線。

1992年度から事業に着手し整備を進めてきたが、東日本大震災の教訓を踏まえ、同路線の重要性が高まったことから、2012年度からは復興予算を活用して重点的に整備を進めている。本年度は鹿嶋市佐田地内で道路の改良舗装工事を行う。

県道潮来佐原線は県道水戸神栖線と潮来大橋を結び、潮来市街地と東関東自動車道路（潮来IC）にアクセスする重要な幹線道路。朝夕において慢性的な交通渋滞が発生しているため、交通の円滑化や住民の安全確保、「水郷潮来あやめ園」へのアクセス向上を目的として、道路改良事業（4車線化）を行っている。本年度は潮来地内の500m区間で道路改良舗装工事を進める。

潮来市内を流れる一級河川前川は、河岸にはあやめ園、さらに前川に架かる十二の橋を巡る観光遊覧船が運航されるなど、豊かな水郷情緒が醸し出された景勝地。しかし、台風などの大雨によりしばしば浸水被害が発生している。

そのため、1989年度に河川改修事業に着手。現在は潮来市と共同で策定した「前川かわまちづくり計画」に基づき、流下能力の増大を図るとともに景観や環境に配慮した川づくりを進めている。本年度は真菰橋架け替えのための下部工事を実施。

鹿嶋海岸及び波崎海岸では、河川からの供給土砂減少や、港湾等の大規模構造物により沿岸漂砂が遮断されたことにより、砂浜の侵食地域と堆積地域が遍在するようになった。

そのため、侵食防止と砂浜の回復を目的として、ヘッドランド（人工岬）と養浜を組み合わせた侵食対策事業を行ってきた。

波崎海岸などでは一定の効果は得たものの、鹿嶋市神向寺地区海岸など一部の海岸では、ヘッドランド事業実施前からの著しい侵食によって大部分の砂浜が失われてしまっていたため、2005年度から粗粒材による養浜工事を進めている。

息栖大橋は常陸利根川を渡河する橋梁。災害時における救援支援活動に不可欠なネットワーク機能の観点から、早急な震災対策が必要なため、橋脚のコンクリート巻き立て等の耐震補強工事を実施。災害時の輸送ルートを確保する。

主要事業の概要は次のとおり（■事業名＝①全体計画②事業年度③本年度事業概要）。

■国道355号牛堀・麻生バイパス整備事業＝①L1万860m（潮来土木管内2500m、内1200m供用済）、W25／14m（暫定2車線12・5／7m）、総事業費180億円②1997年度～③道路改良舗装工事
■都市計画道路3・3・9号宮中佐田線整備事業＝①L1955m（内1412m供用済）、W22／13m、総事業費120億円②1992年度～③道路改良舗装工事
■県道潮来佐原線道路改良整備事業（4車線化）＝①L2100m、W22／13m、総事業費13億円②2013年度～③道路改良舗装工事
■一級河川前川整備事業＝①L3120m、総事業費20億円②1989年度～③市道橋架け替え下部工事
■鹿嶋・波崎海岸浸食対策事業＝①ヘッドランド11基、養浜工一式、総事業費125億円②1985年度～③粗粒材養浜工1万2000㎥（ヘッドランド11～ヘッドランド12）
■息栖大橋耐震補強事業＝①耐震補強橋脚8基、総事業費約22億円②2017年度～③耐震補強工事

▲粗粒材投入状況

県潮来土木事務所 所長 栗林（くりばやし） 俊一（しゅんいち） 氏

潮来土木事務所の主要な事業として、道路事業では、交通の円滑化や災害時における緊急輸送道路ネットワーク機能の確保を目的とした、国道355号牛堀麻生バイパスの整備や都市計画道路宮中佐田線バイパスの整備、息栖大橋（成田小見川鹿島港線）の耐震補強工事などを実施しています。

また、河川事業では、「かわまちづくり計画」に基づき潮来市内の一級河川前川の拡幅整備を進めています。

さらに、海岸事業では、砂浜の回復を目的に、鹿嶋海岸において養浜工事を実施しています。

今後とも、鹿行地域南部の更なる発展に向けて、交通円滑化の向上や日常生活の安心安全に資する社会資本整備に努めてまいります。